

令和 6 年度 順天堂大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）点検・評価結果 医療看護学部

点検・評価項目	点検結果（コメント等）	評価
A：履修状況 - 履修者数・履修率、目標の達成状況 - 学生の履修を高めるための取組 - 学生の学修成果の把握	「情報科学」「統計学」とも必修科目である。履修率はそれぞれ 99.5%、98.6%で、100%に至っていない理由は、在籍したが、休学もしくは退学した学生が含まれていたためであるので、実質的には 100%の履修率である。 「統計演習」については、13 名（5.9%）と履修者が少ないので、今後、学生に受講する意義について周知の工夫が必要である。	A
B：プログラムに対する学生の評価 - 学生の理解度、満足度は十分か - 後輩他への推奨度	- 学生の理解度について、授業評価アンケートの質問項目「授業内容をよく理解でき、新しい知識や技能を身に付けることができたか」の評価において肯定的回答（＜強くそう思う＞と＜そう思う＞）の割合は、「情報科学」91.5%、「統計学」81.5%、「統計演習」100.0%であった。さらに、質問項目「授業から刺激を受けて、その分野や関連分野のことをさらに知りたいと思ったか」の評価において肯定的回答は、「情報科学」76.0%、「統計学」61.1%、「統計演習」75.0%であった。 - 学生の満足度における肯定的回答の割合は、「情報科学」82.6%であり、「統計学」80.6%、「統計演習」95.8%であった。	A
C：プログラムの構成・内容、指導の工夫 - 学ぶ楽しさ、学ぶ意義を教える授業となっているか - 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となっているか - 学生の理解やスキルの獲得を助けるための工夫	- 授業評価アンケートの質問項目「教員の説明やわかりやすく、理解を深めるのに役立ったか」の評価における肯定的回答は、「情報科学」82.5%、「統計学」70.4%、「統計演習」100%であった。さらに質問項目「教員は、グループワーク、グループディスカッション、小テスト、小レポート等、学生の理解を深めるための工夫をしていたか」の評価において肯定的回答は、「情報科学」83.0%、「統計学」79.7%、「統計演習」75.0%であった。 - 学生のコメントとして、「課題をしているときにすぐ駆けつけてくれて教えてくれてわかりやすかった」などが認められた。	A
D：質問・相談等への対応 - 学生からの質問・相談に対応する体制は確保されているか - 授業課題や学生の参加に対し、効果的なフィードバックを行ったか。	- 授業評価アンケートの質問項目「教員は、学生が質問や意見を述べられるように配慮していたか」の評価において肯定的回答は、「情報科学」81.3%、「統計学」81.5%、「統計演習」100%であった。 - 学生のコメントとして「わからない時に先生が近くにいてくださったのですぐに聞くことができてよかった」、「一人ずつ疑問に丁寧に対応してくれた」等が認められた。	A
E：修了生の進路・評価 教育プログラム修了者の進路・活躍状況	本学部としては応用基礎レベルについては申請中であり、修了生が卒業していない。今後、各種アンケートを通じてプログラム修了生の進路、活動状況等の状況を把握し、評価することとする。	F
F：学外からの評価 - プログラム修了者に対する企業等の評価 - 教育プログラム内容・手法等に関する外部意見	現時点では、本プログラムに対する外部意見を把握できていない。今後、本学全体の「外部評価プロセス」を活用しながら、本プログラムの妥当性・有効性に関する外部意見を聴取することとする。	F

【評価の基準】 S：高水準にある/目標以上の成果があった、A：ある程度の水準にある/ある程度の成果があった、B：不十分な水準にある/改善が必要である、F：判断材料の不足により判断できない